

# 熊本市におけるウォーカブル推進事業 (桜町・花畑地区) について

熊本市 都市建設局 都市政策部 市街地整備課

## 1. はじめに

熊本市は九州の中央、熊本県の西北部に位置し、人口約73万人の県都であり、日本三名城の勇壮な熊本城をはじめ、上水道のすべてを賄う清冽で豊富な地下水のほか、豊かなみどりや良質な農水産物など歴史文化と自然の恵みにあふれた都市です。

平成24年4月には、全国で20番目の政令指定都市に移行し、さらなる発展を続けてきましたが、平成28年4月の平成28年熊本地震により、市全体が甚大な被害に見舞われ、復興に向けたまちづくりへの転換を余儀なくされました。

しかしながら、国をはじめ、全国の自治体・団体・個人等の皆さまからの多大なご支援のもと、震災から6年が経過するなか、熊本の町並みは着実に復興を遂げてきており、さまざまな復興に向けた取組みの成果も新たなまちの姿として現れてきています。その代表的な取組みのひとつが、ウォーカブル推進事業です。

## 2. 桜町・花畑周辺地区のウォーカブル推進事業について

本市の中心市街地活性化基本計画に基づく中心市街地は、「熊本城地区」、「通町筋・桜町周辺地区」、「新町・古町地区」、「熊本駅周辺地区」の4つの区分に分かれており、中心部である「通町筋・桜町周辺地区」と「熊本駅周辺地区」では、約2km離れています。

この地理的条件において、中心部だけでなく、中心市街地全体の回遊性の向上を目的として、令和元年8月にウォーカブル推進都市に応募し、ウォーカブルの取組みの推進を図っています。(図-1、図-2)

この中で、「桜町・花畑地区」における取組みを紹介します。

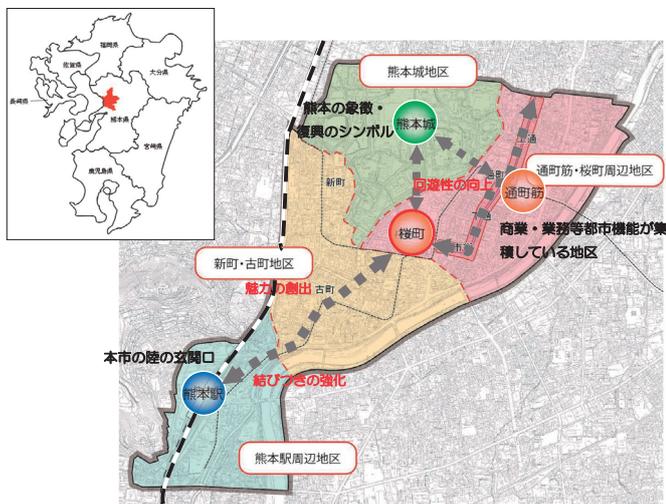


図-1 熊本市位置図、熊本市中心市街地区域図



図-2 中心市街地の回遊性のイメージ

## ① 花畑広場の整備

ウォークアブル推進事業の一環として本市が実施している代表的な取組みが、花畑広場（約1.5ha）の整備です。

この花畑広場は、中心市街地の4つの区分の内、商業・業務等が多く集積する「通町筋・桜町周辺地区」に位置します。

この「通町筋・桜町周辺地区」は、「桜町・花畑地区」・「通町筋地区」の二つの商業核と、これをつなぐ下通・上通・新市街の三つのアーケード街で骨格が形成されており、花畑広場はこれらを繋ぐ重要な結節地点となっています。

(写真-1)

平成18年に民間により発表された、桜町再開発構想をきっかけに、本市において、平成24年に、桜町・花畑周辺地区の「まちづくりマネジメント基本構想」（以下、基本構想という）の

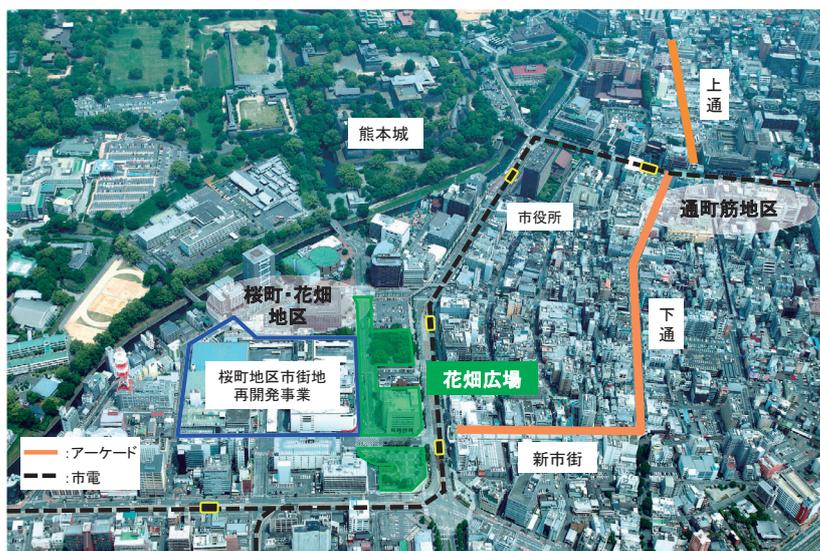


写真-1 花畑広場周辺

策定及び「まちづくりマネジメント検討委員会」の発足を行い、具体的なこの地区のまちづくりの検討を開始しました。

花畑広場は、老朽化等を理由に閉館した市公共文化施設等の跡地と、この地区を南北に縦断する市道（幅27m、延長220m）、さらに隣接する花畑公園・辛島公園の両公園を併せた愛称であり、基本構想の中で、この市道を、「車」中心から「人」中心へ転換する考えのもと、「人が主役のシンボルプロムナード」と位置付け、全面的な歩行者空間とすることとし、平成27年に市道を廃止しました。（図-3）

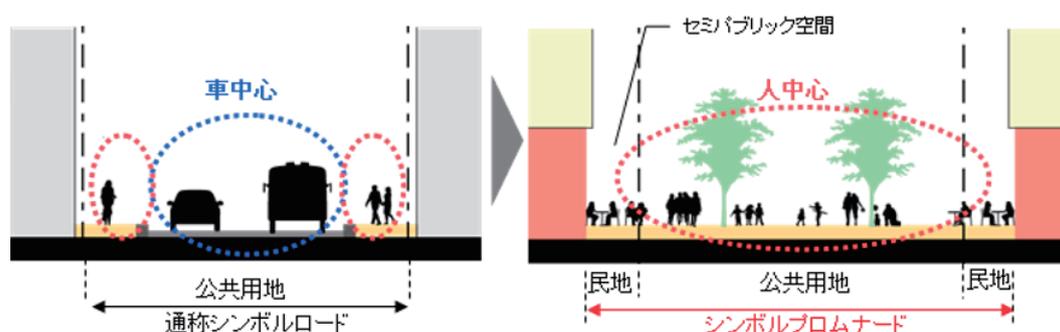


図-3 「人が主役のシンボルプロムナード」

さらに、平成26年には、基本構想を具現化するために、花畑広場の整備方針を示した「まちづくりマネジメント基本計画」を策定し、その後、デザインコンセプトである“熊本城と庭つづき「まちの大広間」”に基づき、熊本城や桜町再開発施設と調和した上質な空間となるよう花畑広場のデザイン検討を重ねました。

また、当該地区のまちづくり並びに花畑広場の具体的なデザインについて、市民を対象としたシンポジウム、オープンハウス、ワークショップ、アンケート等から延べ8,000人以上の方から意見を聴取し、デザインに反映しました。（写真-2、写真-3）



写真-2 シンポジウム



写真-3 オープンハウス

令和2年から、本格的な整備工事に着手し、令和3年11月に全面供用開始しました。(写真-4、写真-5) 供用開始後は、クリスマスイベントや第38回全国都市緑化くまもとフェアが開催されるなど、大きな賑わいが創出されています。(写真-6、写真-7)



写真-4 シンボルプロムナード



写真-5 花畑広場全景（東側から望む）



写真-6 クリスマスイベント

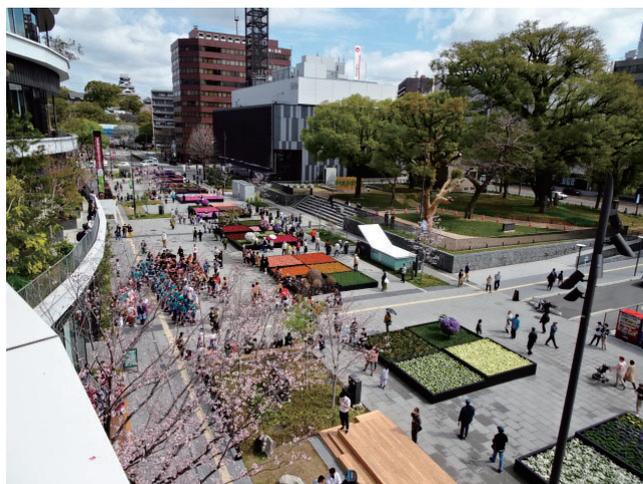


写真-7 第38回全国都市緑化くまもとフェア

## ② 辛島公園北側道路歩行者空間化

花畑広場に隣接する市道（幅21m、延長80m）においては、広場と公園を分断している状況であり、中心市街地のさらなる賑わい創出、歩行者の回遊性向上を目的として、現在歩行者空間化を検討しています。(写真-5)

令和3年2月28日（日）～3月2日（火）の3日間、交通量のピークである平日の通勤時間帯を主な対象として、周辺交通への影響を検証する歩行者空間化の社会実験を実施しました。また、令和4年

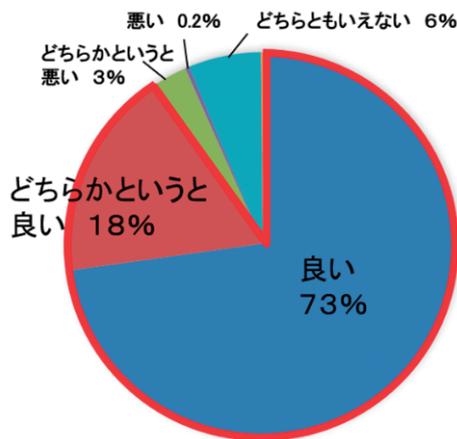
5月3日（火・祝）～5月5日（木・祝）の3日間、ゴールデンウィーク期間中の花畑広場でのイベント開催時における周辺交通への影響を検証する2回目の社会実験を実施しました。（写真－8、写真－9）



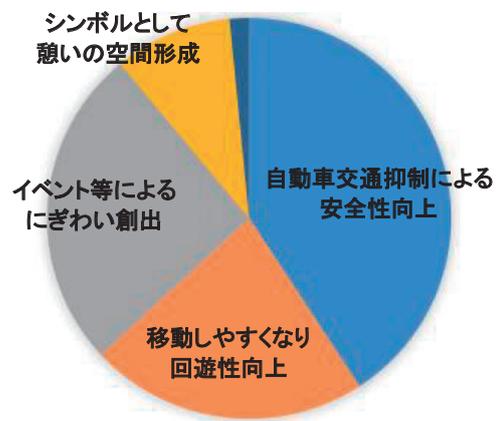
写真－8、写真－9 歩行者空間化社会実験実施状況

社会実験では、周辺の主要交差点における自動車交通量調査とともに、市民への意向アンケート調査を実施しました。歩行者、駐車場利用者、バス利用者約600人を対象に、当該道路の歩行者空間化の取り組みについてアンケートしたところ、約9割の方から賛同する回答を得ました。良い取り組みと回答した理由については、「自動車交通抑制により安全性が向上する」が一番多く、続いて「移動しやすくなり回遊性が向上する」、「イベント等によるにぎわいが創出される」の順となりました。

Q1. 歩行者空間化の取り組みをどう思いますか？



Q2. 良いと思う理由は何ですか？



2回の社会実験期間中、通行止めに伴う周辺交通への大きな影響は見られなかったものの、周辺駐車場からの出庫集中による一時的な混雑等が発生するなど課題もあることから、今後、交通解析や周辺施設への影響等の検証、交通対策等の検討、関係者協議等を行い、歩行者空間化の検討を進めることとしています。

### ③ 道路空間の再配分

花畑広場と熊本城を結ぶ市道についても、道路空間の再配分や隣接するオープンスペースとの一体的な整備・利活用等により、安全で快適な空間を実現するとともに、回遊性向上と賑わいの創出を図ることとしています。（図－4、図－5）今後、道路沿線の関係者等と協力することはもとより、市民ワークショップによる意見聴取や学識者によるアドバイス等を踏まえて、利活用やデザインの検討を行う予定としています。



図-4 道路空間再配分対象地



図-5 鳥瞰イメージ

### 3. おわりに

今後、この花畑広場を回遊の拠点として、人の流れを中心市街地全体に波及させるために、先述しました取り組み以外にも、歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の導入推進やまちなか再生プロジェクトによる老朽化した民間ビル等の建替促進に伴う公開空地や歩行空間の創出、魅力ある夜間空間の魅力向上など、歩行者中心のまちづくりへシフトするウォークブルの取り組みも一体的に進めることで、昼も夜も歩いて楽しいまちづくりを推進してまいります。